



Executive Interview

エグゼクティブ
インタビュー

no.82

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

株式会社 カインドハート 代表取締役

相原 聡 様

藤沢市西部から茅ヶ崎市堤地区にまたがる湘南ライフタウンの、大庭台墓園北門前に一軒家があります。ここは株式会社カインドハートの本社であり、全国でも珍しい邸宅スタイルの葬祭ホール。代表取締役の相原 聡氏にお話を伺いました。

■家族をあたたくく、 ゆっくりと送りたい

——前職は高校の先生だったとか。

はい、13年間数学教師をしていました。平成元年、父が忙しすぎて体を壊してしまったので、学校を辞めて家業を手伝うようになりました。この辺り一帯に広がる湘南ライフタウンは、昭和42年に開発が開始され、その都市計画の一環として、3年後に藤沢市営の墓地「大庭台墓園」ができ、父はそこへ墓石を建てる石材店を経営していました。街の成長と仕事が重なったための忙しさだったようです。

——石材店から葬儀専門の株式会社カインドハートを立ち上げた経緯を教えてください。

墓地の面積は東京ドーム8個分という広さでも、年月とともに区画が埋まっていけますから、縮小傾向となることは確実。いずれ何かしなければならなくなるだろう

ということは、ずっと考えていました。そこで平成18年に葬儀業に参入したのです。葬儀に関しては、石材店の仕事で付き合いのあった葬儀社に当時勤務していた人で、現在は当社の主力スタッフである滝本夏代さんのお客様対応力に感銘を受けていました。彼女と話をしていたら「家族葬」というキーワードが出てきたのです。核家族化が進んだ先の葬儀は小さくシンプルになり、家族だけで見送る葬儀が多くなるだろう。それには既存の仕組みでは対応しきれないのでは、と。

——家族葬とはどういうものなのですか？

家族葬は参列者の人数を少数にとどめ、地域の方々とのご挨拶を省略する葬儀形式です。同じく、お呼びする方を限定するのは密葬ですが、こちらは著名人や会社経営者などが、まずは親しい方々で葬儀を行い、後日お別れの会などを行うといった形式です。

——そして平成18年に株式会社カインドハートを設立したのですね。

はい。当初は家族葬というものがなかなか認知してもらえず、ここ最近でようやく理解されてきたかと思います。当社のホールは全国でも珍しい、家族葬という20人前後の会葬者に対応した邸宅スタイル。これは「ご自宅感覚」で見送っていただきたいという考えからです。近くにある団地にお住まいの方々は、なかなか自宅で葬儀をあげにくいものです。代わりに場所として、うちを使ってください。そんな感覚で建てました。

——見ると、一軒家レストランのような外観ですね。

たまに飲食店と間違えて入ってこられる方もいらっしゃいます(笑)。目の前が霊園で、緑豊かな環境。ウッドデッキもあるため、葬儀を執り行った導師が「ここは寛ぐね」と笑顔になっていました。近隣の方々のお散歩コースでもあるので、話し



家族葬の時代だからこそ、 自宅感覚でお見送りができる施設を。

かけてくださったことからご縁ができ、葬儀をお世話したこともあります。

■綿密な事前相談で、 きめ細かく対応

——事前相談に時間をかけるのが御社の特徴と伺っていますが。

結婚式には準備に時間をかけられますが、葬儀は時間が限定されているなかで進行していくのが現状です。それでも事前相談には、できるだけ葬儀のいろいろなパターンを幅広く提示し、理解していただくようにしています。

葬儀には3種類あります。最もシンプルな茶毘に付すだけの直葬。通夜なしの1日葬。通夜と告別式を行う昔ながらの葬儀。どういう形式にするかは、見送られる方本人と家族が十分納得してから決断するべきだと思っています。我々としても、ご本人、家族、親しい方々の葬儀への考えをまとめる時間を作りたいと思ってヒントを出しています。話していくうちに気にされるポイントが見えてくるものです。



1階は祭壇と式場のスペースで、2階には和室が2室にトイレと浴室が。吹き抜けになっているので、2階で語らう遺族の思い出話が故人に届く距離。鍵もお渡しするので、夜中でも気遣いなく自由に入出入りできるそうです。

気楽な気持ちで話していくと、次第に方針がまとまります。こういった話し合いに参加していない、生まれ故郷の親戚の参列者が、邸宅形式の斎場に足を踏み入れたとき、馴染みのない式場に驚かれることもあります。けれども、家庭的な雰囲気の中、リラックスして思い出話にふけり、見送った後は「いい葬式だった」と笑顔になりました。今まで、葬儀は型にはまった考え方で進められていましたが、自分らしい形式を選ぶことで、残された方々も笑顔で生き続け、お墓参りへと足を運ぶという、いい流れの助けになりたいと思います。

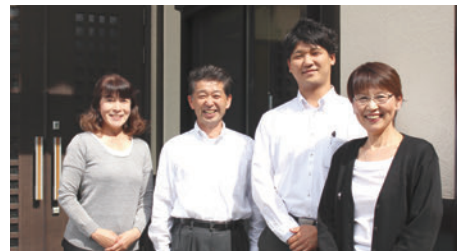
——一方、急な葬儀という場合も多いのでは？

若くして親を亡くされた方は、葬儀に参列した経験はあっても、施主側の経験はあまりないものです。そうした場合は、事前相談と同じように、追われているスケジュールのなかでも極力考える時間を作って差し上げています。当社のスタッフには若手もあり、気兼ねなく相談できる雰囲気作りにも心を配っています。

——規模の大きな葬儀も行っているようですが、小規模な葬儀との違いは？

藤沢市斎場には大中小と3種類のホールがありますから、会葬者が多い場合はそちらをお薦めしています。どちらの場合も、祭壇のお花には心を配っています。故人の好きだったお花を取り入れる、季節を意識する、生前の職業を表現する……提携している花屋さんが頑張ってくれて、密かに自慢できると思っています。

葬儀が終わると、祭壇の写真、故人の亡くなった日付、誰から供花をいただいたかなどを一覧にしたファイルをお渡ししています。法要の参考になればと思って取り入れており、好評です。こんな風に、これからも社名の通り、カインドハートの精神で、お客様の心に寄り添うよう、心を尽くしていきたいと思っています。



ディレクターの滝本夏代さん（右端）、若手の西田梨さん（右から2人目）や、サポートスタッフとともに。

株式会社 カインドハート

〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭5322-4
TEL:0466-86-0120 FAX:0466-86-0594
24時間対応ご相談ダイヤル
☎0120-556-948
<http://www.kindheart.co.jp/>

有限会社 辻堂石材店 本店

〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭5342-34
TEL:0466-86-4194 FAX:0466-86-4114

<インタビューを終えて>

何が起るかわからないなか、社員の健康を第一に考えている相原社長。相談の時間設定など、相談される方にも負担にならない、ゆとりを持った進行を心がけているとか。家族葬は会葬者が少ない分、スタッフも心を読み取るのに気を使い、いつの間にか消耗しているそうです。きちんと休息を取ることが、皆の笑顔につながると話していました。